

丹沢ボラネット瓦版

2011年12月号 No.80

県民協働登山道補修技術研修会

2011年7月10日(日) 秦野戸川公園パークセンターに於いて、県民協働登山道補修技術研修会が開催されました。

東日本大震災で3月27日開催が中止となった県民協働登山道補修等技術研修会が7月10日(日)13:30~16:30 秦野戸川公園パークセンターで開かれました。

午前中、本日の講師を務められる北海道大学大学院地球環境科学研究院渡邊教授と見晴茶屋上部まで同行し、大倉尾根の状況説明と補修の実例について案内をしました。

渡邊教授が興味を示されたのは水切りの構造と付属品として設置している土砂排出用の木製スコップでした。特に、みろく山の会関係者以外の一般登山者が、そのスコップを使用して水切りに溜まった土砂を排出しているとの説明に、全国的にも例を見ない素晴らしいアイデアだとの評価を受けました。

当日は大倉尾根の巡視日であり、見晴上部の崩壊した階段工の補修を行っている自然保護部員の活動内容を見ていただきました。



見晴茶屋上部 補修現場説明



講演会場

午後1時30分から自然公園指導員50名と丹沢自然再生関係者が参加して研修会が始まりました。

初めに、自然環境保全センター自然保護公園部 濱名部長からH20年から開始された県民協働活動についての説明があり、次に、当会自然保護部鈴木から大倉尾根で行われている県民協働型登山道補修協定に基づく大倉尾根の登山道補修活動についての現状と問題点の説明しました。内容は下記の通りです。

- ① 登山道の荒廃は登山者のオーバーユースによるもので、登山者団体として出来る範囲で平成17年から保守活動を開始
- ② 毎月巡視と軽微な補修

- ③ 毎年 1 回清掃と整備活動に会員 200 名前後参加
- ④ ヌカルミ・階段・段差を避けて登山道以外への踏込で裸地化が進行中で対策が急務
- ⑤ 登山道の補修について関係者との意見交換会開催を保全センターへ要望中



講師の渡邊教授



活動内容の写真展示

続いて、渡邊教授から大雪山の登山道調査状況を基にした登山道の維持管理について提案と問題点等の指摘がありました。

- ① 登山道の補修・保全には行政の中長期的なビジョンと登山道利用レベル区分が必須であり、技術指針と簡易アセスメントが重要。
- ② 整備は 5 年先・10 年先を見据えた計画によるが大雪山では環境庁から具体案は出てこない。
- ③ 大規模公共事業によらない登山道維持管理にはボランティアの持続性を高め、社会的認知組織と評価の仕組みなども含め、連絡協議会など組織化がいる。
- ④ 行政の指針を待っているだけでは保守活動が進められない、良かれと思うことは自主的に作業して実績を蓄積したほうが良い。
- ⑤ 丹沢の先進的な活動は評価できる。

など登山道の補修を行っている関係者として納得できる内容が多く、参加された関係者も大変勉強になったと思われます。

時間の関係もあり質疑討議が出来ませんでした。このような登山道補修関係者の研修会を定期的を開催して意見交換が出来る機会を是非設定していただきたいと思います。

(みろく山の会 鈴木茂)

2011 年度 丹沢大山水質調査

みろく山の会は不動ノ峰・塔ノ岳・大倉高原山の家・日向林道起点・皆瀬川林道各水場 5ヶ所で水質調査を行いました。

不動ノ峰は丹沢山から蛭ヶ岳の縦走路の途中にある避難小屋の反対側の斜面を下っての水場で踏み跡がある程度で、その他の水場は小屋の近く又は車で行ける林道脇で迷う心配はない所です。



不動の峰の水場



塔ノ岳下の水場



塔ノ岳にある水場標識



大倉高原の家水場



日向林道起点の水場



皆瀬川林道の水場

平成 23 年度 登山者数カウント調査レポート(続き)

大山・塔ノ岳

みろく山の会、塔ノ岳チームは前日から尊仏山荘の旧館に宿泊し、早朝からの調査に備えていましたが、夜半から強風が吹き荒れ、小屋全体が揺れ続け不安な時間を過ごしました。

朝食後も強風に加え雨も降り出した状況でしたが、各地点へ担当者を送り出して計数を

開始しました。塔ノ岳山頂で大倉方面及び表尾根方面は強風で担当者の交代時に転倒者が出たこともありこれ以上は危険と判断し、保全センター大木氏と電話連絡して10時で撤収を決め、大山チームへ連絡してカウント調査を中止しました。

参考までにカウントしたデータを添付します。

当日大倉の丹沢山開きがありましたが、あいにくの悪天候で下山時にすれ違う登山者はとも少なく大倉まで100名に満たない数でした。

塔ノ岳

	調査箇所		8～9	9～10	10～11	11～12	12～13	13～14	14～15	計
1	表尾根分岐	上り	0	1						1
		下り	2	0						2
2	大倉尾根分岐	上り	25	12						37
		下り	15	13						28
3	鍋割山分岐	上り	15	13						28
		下り	5	9						14
4	鍋割方面から大倉分岐	上り	0	0						0
		下り	0	0						0
5	ユーシン分岐	上り	0	0						0
		下り	0	0						0
6	丹沢山分岐	上り	2	3						5
		下り	1	2						3

大山

	調査箇所		8～9	9～10	10～11	11～12	12～13	13～14	14～15	計
1	ヤビツ峠方面	上り	3	4	29					36
		下り	2	3	0					5
2	下社方面	上り	4	21	28					53
		下り	0	6	22					28
3	大山北尾根方面	上り		1	0					1
		下り		0	0					0
4	日向薬師方面	上り		3	4					7
		下り		8	19					27
5	唐沢峠方面	上り		0	0					0
		下り		0	0					0

全体の登山者数カウント調査報告は今回報告する予定でしたが、本文にもありましたとおり、大山・塔ノ岳が途中で調査を中断しましたので、表示の仕方を検討しますので、全体の結果は次号に報告させていただくこととします。

自然環境保全功労者表彰を受けました

「西丹沢の自然にふれあう会」は 2011 年 6 月、足柄上地域県政総合センターから県環境保全功労者として表彰戴きました。これもひとえに、ボラネットの皆様はじめ、多くの方々のご支援の賜物と、この場をお借りして感謝申し上げます。



さて、当会をご紹介します。当会は 2000 年に結成され、当時汚れのひどかった西丹沢などにある 6 箇所の避難小屋清掃を始めました。会員は老若男女約 30 名です。月一度集まって避難小屋や周辺の登山道のゴミ拾い登山を行っています。過去 11 年間で約 130 日、延約 1800 人が活動し、回収したゴミは 1.5t 以上にもなります。以下に回収したゴミの様子を列挙します。

・**10 年前の避難小屋**：避難小屋であるにも拘わらず、鍋・釜・ハンガー・ふとんなど生活用品？が残されていました。また、小屋や登山道補修工事の残材と思われる、中身の入ったペンキの一斗缶や錆びたワイヤーなどもありました。さらに、小屋の裏にはティッシュの白い花が大量に咲いていました。20kg 近いペンキ缶やふとんなど重量物は背負子で担ぎ、大量のティッシュも一枚一枚拾い上げ、少しずつ回収しました。避難小屋に蓄積されたゴミの回収には数年を要しました。

・**10 年前の登山道**：登山道にゴミは散見されました。それもさることながら、休憩に適した場所に、錆びた空き缶・空き瓶・つまみ類のパッケージなどが埋められ、一部が顔を出していました。こんな場所が何か所もあり、端から掘り起し片づけました。ただ、崖下のゴミなど回収に危険を伴う場合や、ドラム缶など背負うには重すぎるものの回収は断念したこともあります。

・**ゴウ沢出合付近の作業小屋跡**：大量のガラス瓶やその破片がありました。一度回収しても、雨で土が洗われると次のガラスが出てきました。(この、裸地化による表土流出も重要な問題です。)5 年前から約 10 回活動し、回収したガラスの量は既に 1t を超えます。しかしなお、次のガラスが顔を出し、まだまだ途上にあります。

・**最近の状況**：丹沢を訪れる方々のモラルは高くわざわざ捨てたゴミは少ないでしょう。中身の入ったペットボトルやタオルなど忘れ物と思われるものや、風に飛ばされた飴の包み紙などやむを得ないゴミが多いように見受けられます。

さて、今述べたように10年前に比べれば、西丹沢はきれいになりました。しかし過去の埋もれたゴミはまだ残っていますし、僅かではあるものの、忘れ物など新たなゴミもあります。忘れ物など、悪気はなくてもゴミはゴミです。当会は、捨てるゴミはすべて(前述のように無理のない範囲で)拾うようにしています。ゴミがあるとゴミを捨てやすくなります。きれいになっていけば、捨てるのにためらいが起きるでしょう。それでわずかなゴミでも拾い集め、避難小屋や登山道のゴミゼロを目指し、活動を続けています。ゴミゼロが丹沢保全の第一歩でしょう。

一方で、ポラネット関連行事、県主催の行事などへも積極的に参加し、ゴミゼロ以外の視点からも、丹沢保全のお役に立つことを心がけています。

今回、表彰という思いもかけない栄誉を戴いたことをバネに、今後も月一回のささやかな活動を地道に継続していきたいと思えます。

(西丹沢の自然にふれあう会)

山北・皆瀬川流域で生きている自然の猛威を観た！！

2011年7月24日(日)夏休み親子自然探険隊が開催された。
応募申込みは331名(121組)と盛況。可哀相だが45名に絞った。
最終的に参加者は46名(親23名子23名)20家族。スタッフは16名、見学2名で実施しました。

今年は、東日本大震災・集中豪雨などがあり、自然が荒れているのではないかと懸念していました。去年の台風の影響でだいぶ荒れたようですが、門田先生と33名のスタッフの皆さまが、夏に観れるようにと正月の4日に「アオサゴ引起し隊」を結成し、見事に前年のように復元して戴きました。

今回の夏休み親子自然探険隊開催については、町役場との打合せ・清掃・ルート確保など5回ほど行き安全で楽しい遡行を心がけました。

神縄断層地帯での湧き水、崖を登るための階段設置、路肩補強、雑草除去など諸々の作業を行い、万全の準備をいたしました。22日に最終点検したところ、数日前の豪雨で神は縄断層地帯の水場が埋もれて、無くなってしまいました。それと水流が強く川の渡渉が困難な場所もありルートを若干変更しました。

本番当日は、山北ふれあい交流館での展示された化石を見たり、丹沢の成り立ちの話やビデオなど予備知識を導入。もう子供たちはわくわく期待むんむん。

現地に着くと、少し急な階段を下りて草を刈った広場で神縄断層の露頭で断層の説明がありました。そして上流へ移動、しかし川を渡渉して中州へ、初めコワゴワしていた子供たちも、スタッフの手助けで流れの中に足を入れたら、面白がってビシャビシャと水と戯れていました。色々な石を探して先生に鑑定してもらい、大人よりも勉強熱心でした。ご褒美に2日前から冷やして置いたスイカを皆で味わいました。冷たくて美味、「食べた後の皮はゴミ袋に入れ、皆の川を来た時よりもきれいにしようね」と自然を尊ぶ心を教えました。

急な梯子を登り、崖をザイルで攀じ登りバスに乗車し八丁へ。昼食、昼休みは、川の木からのブランコ、ターザンロープ、大小のビニール袋で水と力比べなど楽しい時間を過ごしました。

再びバスで移動、「アオサンゴの化石発見隊」のスタート。ザイルに捕まりながら、川へ下降、めざす「アオサンゴの化石」をブラシで岩をこすって発見。流れで濡れたってへっちゃら。もうここには、いたずらっ子もいじめっ子もいません。みんないい子、目がキラキラ輝いています。

水が、流れが、木々の緑が、そして美味しい空気が、子供たち、いえ、大人の人々の心も浄化してくれたのでしょう。

多数のスタッフの方々、お手伝いありがとうございました。

(世話人代表 杉山勉)



野生動物救護の会が、感謝状を受与されました

2011年6月1日 秦野市役所市長室において、(財)日本鳥類保護連盟から「野生生物保護功労者感謝状」の受与式が行われました。

受与は、古谷義幸市長さんから渡辺理事長が、みなさんを代表して受け取りました。

感謝状は、秦野市役所環境保全課の推薦があり会員のみなさま一人一人の地道な野生動物の保全に対する熱い思いへのご褒美かと思われます。

これからも、自然に生きる小さな命一つ一つを守って行ける様にみんなでがんばります。



古谷市長から感謝状を受け取る渡辺理事長



感謝状

ボラネット団体等の行事案内

★自然環境保全センター企画展

「自然環境保全センターの豊かな自然写真展」

実施期間:1月8日(日)~3月25日(日)

場 所:自然環境保全センター2階ブナの森ギャラリー



★お問合せ・連絡先(協働編集事務局)

神奈川県自然環境保全センター 自然保護課 大木伸一

〒243-0121 厚木市七沢 657

電話:046-248-6682 FAX:046-248-2560 e-mail:ohki.baik@pref.kanagawa.jp

丹沢ボラネット瓦版 2011年12月号(通巻80号) 12月27日発行

丹沢大山ボランティアネットワーク(世話人代表 杉山勉)